福岡県立八幡工業高等学校

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の取組

目指す生徒像（国語科）

正確な意思疎通を行うための効果的な表現ができる力や正確に理解する力、それらを支えるに十分な語彙を持ち、未知の課題に対しても主体的・協働的に取り組む姿勢を備えた生徒

	語彙力UP	表現力UP	理解力UP
結果	語彙を増やそうとする意欲が向上する。 ↑ 言葉に対する興味が増す。より適切な言葉を使おうとする。	自分の言葉で伝える技術が身につき、表現することへの考えが深まる。 ↑ 相手に伝わる表現を試行錯誤したり、上手な表現を参考にしたりする。	協力して課題に取り組む姿勢が生まれる。また、意見交換により理解が深まる。 ↑ 生徒同士の教え合い・学び合いが生まれる。
工夫・改善	 知識の曖昧な語句を用いて短文を作らせる。	 自分の考えた文章を発表させ、正しく伝わっているか他者から意見をもらう。	 分からない箇所はすぐに近くの人と相談できる環境を作る。
これまでの授業	曖昧にしか覚えていないため語彙が定着せず、言葉を正しく使えない。 ↑ 教科書の音読中に読めない漢字があった。でも、一度先生に教えてもらったから覚えているだろう。	文の構成を意識していないため単語での表現になりがちで、正確に意図が伝わらない。 ↑ 課題で作文を書くことになった。伝えたいことはあるがうまく言葉が繋がらず、どうしようか悩んでいる。	授業に消極的になったり、課題を諦めがちになったりする。 ↑ 自分だけでは課題の答えまではたどり着けそうになく、悩んでいる。

学校の課題と改善点

【これまでの本校生徒によくあった悩み】

- ○体を動かす実習は好きだけれど、じっと座って先生の話を聞く授業は苦手……
- ○与えられた課題を終えたら何をしようか……
- ○理解したと思うけれど、どうもそれがうまく説明ができない……
- ○やる気はあるのだけれど、何となく自信が持てない……

【悩みを受けて改善するポイント】

- ○生徒が主体的に活動できる場の工夫
  - → グループ活動や発表の場を増やす。
- ○生徒が自分で課題を発見できるようにするための工夫
  - → 他の生徒と教え合うことで考えを深めさせる。
- ○生徒が自分の考えを伝えられるようになるための工夫
  - → 口頭で説明させたりレポートを書かせたりする。
  - 語彙を確実に定着させ、活用の仕方を訓練する。
- ○生徒が自信を持って授業に臨むようになるための工夫
  - → 成功体験を何度もさせて、自己存在感を高める。